

やまあらしのジレンマ

2024.1.20

あるところに、二匹のやまあらしがいました。冬の朝、とても寒いので、二匹のやまあらしは、互いに温めあおうとして、身を寄せ合いました。

しかし、あまりにも近く身を寄せ合ったため、二匹のやまあらしは、自分の体に生えているハリによって、互いに相手を傷つけてしまいました。

その痛みから、二匹のやまあらしは、相手から離れたのですが、今度は、また、寒くてたまらなくなりました。

そこで、再び二匹のやまあらしは、身を寄せ合いました。すると、また、互いに相手を傷つけてしまうのです。

こうして二匹のやまあらしは、離れたり、近づいたりを繰り返して、ようやく、最適の距離を見出したのです。

これは、「やまあらしのジレンマ」という寓話である。我々の心は、寒さと痛みのジレンマの中でしか、最適の距離を見出すことができないのだろうか。人間同士が互いに仲良くなろうと心の距離を近づけるほど、互いに傷つけ合って、一定の距離以上は近づけない。人間同士が仲良くなるためには、近づくことが絶対条件となるが、近寄りすぎると互いの考え方の違いから緊張感にさいなまれ、反発が起きることがある。ところが、離れすぎてしまうと疎外感が生まれ、違和感を抱いてしまう。どうすれば上手に心の距離を取れるのか、うまくコミュニケーションを取るにはどうすればいいのか。こういった人間が抱えやすい傾向にある問題を指す言葉として、「やまあらしのジレンマ」がある。

人間関係の悩みは、少なからず誰しもが抱えているものだろう。もし人間関係に悩み、やまあらしのジレンマに陥ってしまったら、寓話に出てきたやまあらしのように、互いに適切だと思える距離を見つけることが重要である。

自分にとっては何でもないことでも、相手にとっては不快に感じてしまうこと、あるいは、その逆もある。お互いが別の人間である以上、気持ちや考え方のすべてを理解し合うことは不可能であろう。

そこで、ジレンマを乗り越え、お互いに適切な距離を見つけるには、まず他人が自分とは違う人間であることを理解する必要がある。そして、相手の言葉を注意深く傾聴し、自身の気持ちを整理して、相手に分かりやすく伝えるコミュニケーションを心がける。そうした互いに尊重し合った関係を築くことで、やまあらしのジレンマを乗り越えることにつながる。